

大門の屋根や柱



瓦や柱の一部は
港郷土資料館に
展示されているよ。
見に行ってみよう！

大門の建てかえや修理は、地元の人々の寄付や
大門を大事に思う気持ちで実現しました。



棟瓦



軒丸瓦



隅丸瓦



雨や風で腐りやすい柱の
根本に巻く金属板です。

根巻



柱

表面の塗装がはが
れ落ち、元の色が
見えています。

元の色は
今よりも
明るい色だね



港郷土資料館利用のご案内

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：日曜日・祝日・毎月第3木曜日・年末年始・特別整理期間

交通：JR「田町」駅下車徒歩5分

都営地下鉄三田線または浅草線「三田」駅下車(A3出口)徒歩2分

都営バス「田町駅前」停留所下車徒歩2分

港区コミュニティバス(ちいばす)「田町駅前」停留所下車徒歩2分

「田町駅西口」停留所下車徒歩3分



港区立 港郷土資料館へ行ってみよう！ 第15号

編集・発行 港区立港郷土資料館 〒108-0014 東京都港区芝5-28-4 ☎03(3452)4966

<http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/muse/>

『港区立港郷土資料館へ行ってみよう！』のバックナンバーは、ホームページでご覧いただけます。

イラスト：横山真弥 デザイン・印刷：文洋社

港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。
この印刷物は、古紙を利用した再生紙を使用しています。



刊行物発行番号
29302-7541

港区立

港郷土資料館

行ってみよう！

第15号

大門



この門は大門。
地域の人たちに
大事にされている
門だよ。

門の下を
車が通るのね！

大門の向こうに
見えるのは増上寺の
三解脱門よ。



港郷土資料館

大門

大門は増上寺の表門にあたり、本堂、三解脱門（三門）と一直線に並んでいます。増上寺は慶長3(1598)年に江戸貝塚（現：千代田区平河町辺り）から現在の場所に移りました。慶長10(1605)年に本堂などの建物とともに建てられた大門は、1700年代に火事で焼けたため建て直されます。年月がたち、大正12(1923)年の関東大震災で傷みが進み、昭和12(1937)年に鉄骨鉄筋コンクリート造りの門に生まれ変わりました。さらに、昭和58(1983)年に瓦の補強と壁の塗りかえ、平成28～29(2016～2017)年には大がかりな修理をして、地震にも強い門になりました。



一直線に並ぶ増上寺の
本堂・三解脱門・大門



昭和12(1937)年に建てかえられた大門は元の大門のデザインを受けつぎました。ただし、サイズは1.5倍に大きくなりました。どうしてかな？

大門の下の道を通る
車の数が増えた
からだね！



江戸時代的大门

今的大门

造り	木造	鉄骨鉄筋コンクリート造
大きさ	今的大门の 2/3	高さ：約 10m 幅：約 12.4m
色	朱色 (オレンジ色に近い赤)	えんじ色
使われた期間	江戸時代～ 昭和12(1937)年	昭和12(1937)年～



江戸時代的大门



今的大门

描かれた大門 写された大門

大門は古くから地域の人々に親しまれ、その姿は浮世絵や写真に残されています。



歌川広重「東都名所 芝神明増上寺全図」
天保3～13(1832～1842)年頃



江戸時代的大门は昭和12(1937)年の建てかえの時に両国の回向院へ移されましたが、昭和20(1945)年、太平洋戦争の空襲で焼けてしまいました。



川瀬巴水「新東京百景 芝大門の雪」
昭和11(1936)年



昭和37(1962)年の大門

「大門」は都電やバスの停留所、地下鉄の駅の名前にもなったよ。

都電の停留所「大門」 昭和42(1967)年



都電は昭和44(1969)年まで港区内を走っていました。

大門の停留所はどこにあったのかな？調べてみよう！



昭和34(1959)年の大門

車や自転車が大門の下を走りぬけています。

